



元気っ子

No.269 ながさわ保育園

園長 中瀬 弦 偉

新年あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願い致します。

つい先日、元号が「令和」に変わったと思ったらあっという間に令和二年が始まりました。本当に月日の経つのは早いものだとつくづく感じます。今年も子どもたち、職員たちと一緒に少しずつ成長していけるように、一日一日を大切にしていきたいと思います。

12月はおゆうぎ会を無事に終えることができました。これも保護者の皆様、関係者の皆様のご協力あってのことだと思います。本当にありがとうございました。撮影協力を頂きました株式会社サンアリックスさんの方では今、DVDの編集をして頂いております。皆様の元へお届けできるのはもう少し先になりますが、練習風景など普段見られないシーンも収録されていますので、楽しみにして下さい。また、歌唱指導をして下さっている辻美由起先生にも毎年ご尽力を賜り、今年も素晴らしい歌声をお届けすることができました。3月の卒園式には子どもたちがまた素晴らしい歌唱を披露してくれることかと思しますので卒園児の保護者の皆様はこれも楽しみにして下さい。

毎年、おゆうぎ会が終わった後、文化会館の出入り口で皆様をお見送りさせて頂いているのですが、ここで保護者の皆様と交わす二言三言の会話が私はとても大切なことだと感じています。そして子どもたちの晴れ姿に目を細め、涙し、楽しそうに帰っていく後ろ姿を見ていると「今年もおゆうぎ会は大成功だった」と感じます。

今年は舞台上でもご挨拶をさせて頂きました。その中で異年齢保育のお話をさせて頂いたのですが、少し補足させて頂きますと、3・4・5歳で一つのクラスを形成することはこれまでと全く変わりません。ただ、そのクラスごとの活動が単独にならずに、他のクラスとも連動し、職員も流動的に動きながら日々の活動を行っていきえるようにしていきたいと考えています。その中で子どもたちが「今日は製作がしたい」「散歩に行きたい」などと自らが選択し、活動できるような環境を用意していくことが必要だと思います。そして活動の内容によって、本来は5歳児向けのような活動にも3歳・4歳児でも「出来る」と判断してチャレンジする子もいますし、実際に出来る子もいるはずで、「習熟度」とお話ししたのはこのことで、年齢による我々大人たちの「固定観念」「刷り込み」をなくして、子どもたちに自由に選択させてあげられる環境を広く用意していく必要性が、これからの時代には求められていると思います。子どもたちが自ら活動を選択することで、「やらされている」という感覚がなくなり、自らが意思決定したものに責任をもつという感覚が生まれ、この感覚こそが子どもたちが未来を生きていくうえでとても大切な能力になると思います。

最後になりますが、この元気っ子で折に触れて「環境問題」についてもお話させて頂いているのですが、おゆうぎ会の舞台挨拶の中でも少し触れさせて頂きました。そんな中で、ある保護者の方が「おゆうぎ会の帰りに寄ったコンビニで、園長先生が言ってたからレジ袋断ったよ」とおっしゃって下さいました。とても嬉しかったです！ありがとうございます！

